

2024年度 森下記念病院における勤務医負担軽減計画

2024年3月末現在の勤務医の勤務状況	
1 医師数	・常勤 9名 ・非常勤 26名
2 常勤医師平均業務時間	平均: 39.4時間/週(最大: 58.6時間 最小: 32.0時間)
3 当直回数	月平均 2.21回

目標
今2024年4月より、医師の働き方改革が施行され、当院は医師宿直許可承認も得て、指定水準はA水準となっている。
昨年度に引き続き、
1.勤務医師の年間総労働時間の上限原則960時間以内を厳格に管理する仕組みの確立と維持に加え、
2.確実に休息を取ることができるよう、退勤から翌日の出勤までに原則9時間を空ける勤務間インターバル制度についても遵守できる仕組みと管理体制を構築する。

オ・カ 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる 所管部署	達成項目のチェック 2025年3月	
					<input type="checkbox"/>	%
オ	薬剤師が、右記業務を担うことにより、医師の負担を軽減する(医薬品管理業務の煩雑さ軽減)。(新規)	1.入院時における持参薬の確認・管理。 2.中止・休薬の再調整。 3.残薬確認。 4.薬剤管理指導の強化。	2024年度内の実現を目指す。	薬剤課	<input type="checkbox"/>	%
オ	健診胸部XP、胃バリウムで読影補助業務を行っているが、結果説明までに補助読影が間に合わないことがある。(新規)	読影補助を行えるスタッフが限られているため、全スタッフが行えるようにする。該当スタッフの技術習得に向け育成を実施。	2024年度中の実現を目指す。	放射線課	<input type="checkbox"/>	%
オ	電子カルテオーダーに紐づかない管理料算定入力煩雑である。(新規)	医事課により、オーダー・実施内容を基に管理料入力を代行する(入院・外来・透析)。	2024年度中の実現を目指す。	医事課	<input type="checkbox"/>	%
オ	胃がん検診の結果報告書を作成する際、所見は手書きを要している為かなりの負担となっている。(新規)	医師が選択するだけの書式を作成し、その結果を事務側で転記することで負担軽減となる。	2024年度の実施を目指す。	健診	<input type="checkbox"/>	%
オ	・各入院指示がもれてしまうことがある ・入院日程変更の際の変更漏れが発生(新規)	入院事務にて入院説明を行った際、入院指示がない(漏れ)場合は、入院の必要書類を支援課へ戻してもらい指示入力とする 入院事務・担当Nsより必ず報告をもらう	2024年度の実施を目指す。	支援課 (腎センター)	<input type="checkbox"/>	%

オ・カ 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる 所管部署	達成項目のチェック	
					2025年3月	
オ	医師事務による検査結果確認に伴う、栄養指導を実施し、成果を出す事が出来たが、腎センター患者のみであった。 (内容追加)	外来患者にも同様に栄養指導対象者抽出を行い栄養指導を実施する。	2024年度中の実現を目指す。	栄養課	<input type="checkbox"/>	%
オ	データ提出に必須となる様式1資料を医師が作成している。 (継続)	診療情報管理士による各データの必要項目調査と資料作成を行い、医師が承認する。	2024年度はデータ精度の質を向上させる。	診療情報管理室	<input type="checkbox"/>	%
カ⑤	入院患者管理については主治医制を導入しているため、夜間、休暇時には基本的にオンコールで主治医が対応しており、勤務時間外の負担が増している。 (継続)	2023年度は2名の常勤医師採用を計画しており、新任医師も含め複数主治医制または、サブ担当医制を継続する。	2024年度も継続、医師個別の負荷分散。	診療部	<input type="checkbox"/>	%
カ⑥	育児休業明け医師もおり、働く女性等支援でもある職場環境の提供として、子育てを支援する環境の提供が必要と考える。男性医師の育児支援も課題である。 (継続)	病院24時間保育施設が併設されており、医師の子育てを支援する環境も確保できる。職域の違いからベビーシッター制も採用しており活用を促進。これにより常勤医師招聘の為の厚遇にも繋げる。加えて、多様な勤務時間(育児に伴う時短勤務)も承認していく。	2024年度も継続、利用促進を行う。	保育課 総務課	<input type="checkbox"/>	%
カ②	常勤医師の当直負担に濃淡があり、負担が重い医師への軽減が必要である。 (継続)	病院長より直接常勤医師への働きかけを継続し、偏りの解消と協力を要請する。新任医師にも分担を依頼。	現在も実施中、2024年度も継続実施。短時間正規雇用医師の稼働上昇を目指す。	病院長	<input type="checkbox"/>	%
オ	医師の記録、データ整理業務が多く勤務負担となっている。 (継続、一部追加)	医師診療作業補助者の適正な配置。 1.診断書などの文書作成補助。 2.診療記録への代行入力。 3.診療に関するデータ整理。 4.院内癌登録など統計・調査。 5.研修・カンファレンスのための準備作業。 6.感染症サーベイランス事業に係る入力。 7.検査予約代行入力。 8.回診事前準備。 9.身体抑制指示入力。 10.入院総括等の下準備	現在も実施中、2024年度も継続実施。	診療部門 支援課	<input type="checkbox"/>	%

オ・カ 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる 所管部署	達成項目のチェック	
					2025年3月	
オ	CKD・PD・DM外来・フットケア診療において専門看護師が介入し前もって情報収集することにより、医師の診療負担軽減ができる。 (継続)	腎臓病療養指導士・腎臓病療法専門指導士・腹膜透析指導看護師・日本糖尿病療養指導士・日本フットケア、足病医学会フットケア指導士の介入により 1.専門的かつ継続的な関わりができる。 2.より個別性のある対応で医師の治療方針を共にサポートすることができる。 3.診療前問診を実施する事で診療の一助となることができる。	2024年度も継続実施。有用度高く、業務範囲拡大を目指す。 腎臓病療養指導士・腹膜透析指導看護師を毎年1名ずつ増やす。	看護部	<input type="checkbox"/>	%
オ	診療放射線技師法改正に伴う業務範囲拡大でのタスクシフト (継続)	1.動脈路に造影剤注入装置を接続する行為(動脈路確保のためのものを除く。)、動脈に造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する。 2.上部消化管検査のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入する。また、当該造影剤の投与が終了した後に鼻腔カテーテルを抜去する。 3.下部消化管検査のため、注入した造影剤及び空気を吸引する。 4.造影検査のための静脈路への穿刺、検査後の抜針及び止血を行う。	所定の研修を受講し実行する。 研修受講が著しく困難な状態であり、方策検討、一歩でも進展を図る。	放射線課	<input type="checkbox"/>	%